



きょうようときょういくのままに ⑮

## つながる 感性 モデリング

東京学芸大学名誉教授 篠原文陽児

待つこと4ヶ月。7月26日(木)、新しい相棒と面会し、連れて帰るワクワクしたようむき。長くつながりあるディーラーにいく。

そこには、全身が白を基調とするパール色に輝き、足元はやや精悍に黒く光り、カメラと思しきセンサーが従来以上の数で見出せる相棒が、いた。内部は、キャッチコピーのコネクテッドを実感させるに十分。ディスプレイ1基はツンと直立し、もう一つの統合された2基で、周囲の認知を容易にする。加えて、数少ないスイッチ類とからだ全体を包み込むような形状のベージュ色シートは、空を見通せる天井の窓の開放感を強調し一体感を際立たせる。いかにも、ヒトが操ることを大原則にしつつ、道路とクルマ、クルマ同士がつながる機能の数々が体感できそうな造り、それらが目に飛び込んだ。

ITS (Intelligent Transport System、高度道路交通システム) は、鉄道網と航空網による大量の流通と移動の手段に劣らず、我々に一番身近な生活基盤であるクルマ社会を持続的に発展させるインフラである。1995年以来、わが国のみならず世界が情報通信技術の進展に歩調を合わせ、時には先行し、道路交通の最適化、事故や渋滞の解消、省エネや環境との共存を図る施策の根幹として、確かな歩みを進めている。そして、今、AIの急速な後押しを受けたビッグデータの収集と分析処理技術の進歩。これに呼応するかのように、飛躍的に質を高め個の感性にも柔軟に対応するかのような音声認識技術、センサー技術、制御技術、そしてこれらの基礎であるモデリング。新しい相棒は、その実現への第一歩が踏み出されたと、現時点では筆者に実感させるに十分と、映っている。

5月25日(金)に、虎ノ門のとある会議室。7月28日(土)は、千代田区一ツ橋の会議場。前者は、新学習指導要領を踏まえた教育の情報化の推進に関し、政策の立案と遂行に直接かかわる文部科学省担当者の講演。特に、小学校におけるプログラミング教育の導入をはじめとするICT (情報通信技術) 関連の授業を2020年度から確実に実施するためには、教材教具の調達や人員配置等につき、本会の参加者が各自治体等関連部局に積極的な働きかけをする必要があるとの講演者の熱い思いは、根深い課題の一つを解決する重要なメッセージとして、筆者には重く響く。後者は、1993年の開始以来の第20回OECD/Japanセミナー。副題は、OECDからみる日本の教育政策。OECDのPISA、TALIS等主要事業の統括責任者等による基調講演のほか、2030年に求められる資質・能力、学校と地域の連携、学び直し・リカレント教育という分科会の構成。中でも、AIに関する研究開発の人材不足、つながりの希薄化、自然体験の機会減少を日本の課題とした指摘は、特に興味深い。また、人間の強みが、現実世界を理解し意味づけできる感性と倫理観、板挟みや想定外と向き合い調整する力、そして、責任をもって遂行する力であるとの指摘。合点。

視聴覚教育は、映画教育から教育工学に至る系譜の中で、一貫して、直感と経験に根ざした感性を磨くことに注意を傾け、情動の発露を豊かにし、合わせて認知能力の向上に寄与する個性重視の教育を牽引してきて、その成果は計り知れない。ヒトの感性と認知を優先するICTを支えるモデリング。これをいっそう高度化する基礎的・基本的な視座として、視聴覚教育の果たす役割は大きい。